ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

地域医療体験研修（夏期）
実施報告書

相双地域の“今”を見て！聞いて！感じて！ください

研修日：平成２６年８月２７日（水）～２９日（金）

福島県相双保健福祉事務所

研修概要

８月２７日（水）から２９日（金）の３日間、「地域医療体験研修（夏期）」を双葉郡広野町、相馬市、南相馬市、相馬郡新地町において実施しました。

地域医療に関心を持つ医学生８名の参加を得て、東日本大震災により大きな被害を受けた相双地域の医療や復興について理解を深めるため、医療現場の視察、医師との懇談、地域住民との交流及び被災地の視察等を行いました。

研修日程表

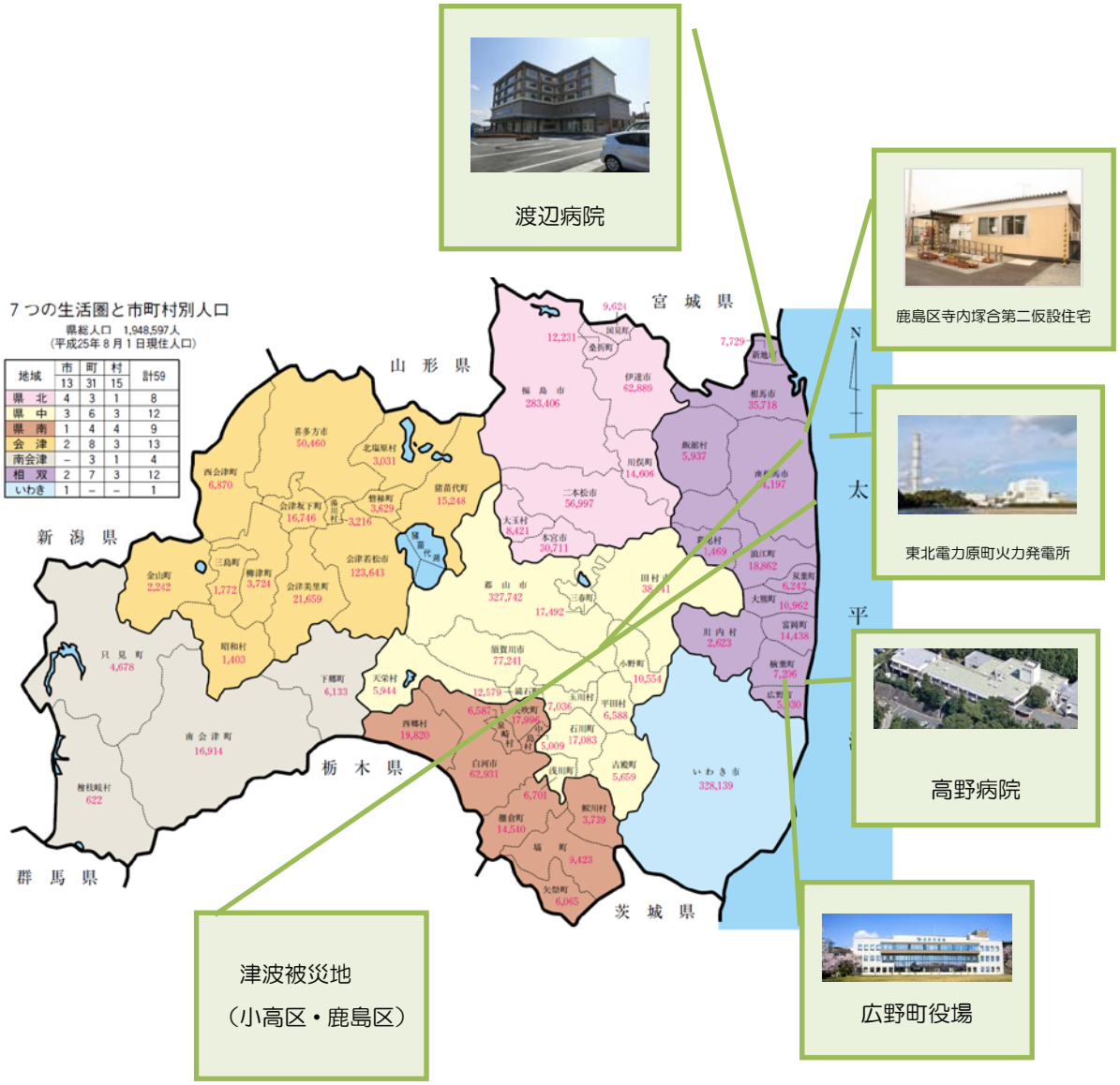
月／日	時間	内容
８／２７（水）	10：15～11：00	オリエンテーション（福島県立医大）
	13：00～14：00	広野町の復興状況の視察
	14：15～17：00	高野病院の視察、病棟体験
	17：30～19：00	医療従事者等との懇談会
８／２８（木）	9：20～ 9：35	南相馬市小高区津波被災地の視察
	10：00～11：45	東北電力原町火力発電所の視察
	13：15～14：30	地域住民との交流、ボランティア活動体験 (場所：鹿島区寺内塚合第二仮設住宅)
	15：15～16：45	渡辺病院の視察
	17：30～18：30	課題研究
８／２９（金）	8：30～10：30	研究発表
	10：45～13：00	相馬市内視察

８月２７日宿所
（いわき市）

８月２８日宿所
８月２９日研究発表会場
（相馬市）

貸切バスで移動

視察先マップ



地域	市 13	町 31	村 15	計59
県　北	4	3	1	8
県　中	3	6	3	12
県　南	1	4	4	9
会　津	2	8	3	13
南会津	–	3	1	4
相　双	2	7	3	12
いわき	1	–	–	1

・広野町役場（広野町下北迫字苗代替 35）
・高野病院（広野町下北迫字東町 214 番地）
・東北電力原町火力発電所（南相馬市原町区金沢字大船廻５４）
・南相馬市寺内塚合第二応急仮設住宅（鹿島区寺内字塚合 89）
・渡辺病院（相馬郡新地町駒ヶ嶺字原 92）

８月２７日（水曜日）

オリエンテーション（福島県立医科大学）

地域医療体験研修の開始に当たり、福島県立医科大学において研修の趣旨及び研究課題等についてオリエンテーションを行いました(説明、同大学大谷教授)。

また、研修２日目に予定している仮設住宅住民との交流・ボランティア活動体験で行う血圧測定に備え、血圧計の使い方を練習しました。

大谷教授(右)

血圧測定の練習

広野町の復興状況の視察

広野町役場では、遠藤町長から歓迎のあいさつをいただくとともに、松本復興企画課長から町の復興状況の説明を受けました。その後、広野町東側開発事業予定地や災害復興住宅、災害廃棄物・除染廃棄物の仮置場等を視察しました。

遠藤町長

松本復興企画課長

現地視察

仮置場

高野病院の視察、病棟体験（広野町）

高野病院では、高野院長から地域医療について、高野事務長から震災時の対応等について説明を受けました。

また、学生が３班に分かれ、病棟において患者と直接ふれあう体験をさせていただきました。

高野事務長

病棟体験の様子

病棟体験の様子

病棟体験の様子

医療従事者等との懇談会（広野町）

広野町の菅野副町長及び青木町民保健課長、高野病院の高野事務長に参加いただき、また、災害医療センターの研修生も同席し、地域医療に対する考え方や震災時の体験談などについて意見交換を行いました。

菅野副町長

８月２８日（木曜日）

津波被災地の視察（南相馬市小高区）

南相馬市小高区の津波被災地を視察しました。

南相馬市小高区は、福島第一原発の事故により、同原発から半径２０ｋｍ圏内のため「警戒区域」に指定され、その後、平成２４年４月１６日から現在まで「避難指示解除準備区域」となっている地域です。立入が自由になり復旧工事も実施されていますが、津波に襲われたままの状態をとどめている住宅などがまだ点在している状況でした。

被災家屋

東北電力原町火力発電所の視察（南相馬市）

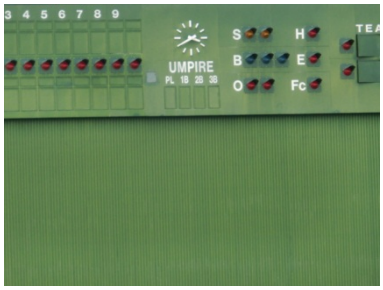
東北電力原町火力発電所を視察しました。

発電のしくみや津波被災からの復興に関する説明の後、施設内を見学しました。

原町火力発電所前

津波被災地の視察（南相馬市鹿島区みちのく鹿島球場）

津波被災の傷跡が残る「みちのく鹿島球場」を視察しました。



津波が到来した時間で時計が止まっている。

地域住民との交流、ボランティア活動体験（鹿島区寺内塚合第２仮設住宅）

南相馬市鹿島区にある寺内塚合第２仮設住宅集会所で、仮設住宅住民の血圧測定や健康相談体験を行い、被災した地域住民の方々と交流しました。

血圧測定体験の様子

健康相談体験の様子

住民の方々へ別れの挨拶

渡辺病院の視察（新地町）

平成２６年３月に南相馬市から新地町に移転した渡辺病院を視察しました。

渡辺病院木幡マネージャーより震災対応や病院移転の経緯等に関する説明を受けた後、院内を視察しました。

木幡マネージャーの講話

院内視察の様子

８月２９日（金曜日）

研究発表（相馬市）

「今回の研修の感想」と「地域医療に必要とされる医師」をテーマに研究発表を行いました。

相馬市内視察

道の駅そうまと百尺観音を視察し、当地域の歴史と文化を学びました。

道の駅そうま

百尺観音

参加した学生の皆様から、感想をいただきました。

- 相双地域医療研修では、地域医療の現状を知ることはもちろん、被災地での災害医療や被災地の現状についても理解を深めることができます。この研修で一番心に残っていることは、仮設住宅訪問です。住民の方々の血圧を測らせて頂きました。電子血圧計ではなく、水銀の血圧計だったので大変緊張しましたが、血圧を測り終えた後、住民の方々が笑顔で「ありがとう」と言ってくださったのがとても嬉しかったです。また、住民の方々からは震災当時のお話しをたくさん伺うことができました。何度も何度も避難先を変え、大変な思いをたくさんしてきたにもかかわらず、皆さんはとても明るく、前向きでした。私も元気をもらいました。普段の生活では震災は過去のことと思われがちですが、そんなことはないと思いました。

  また、病院見学もとても勉強になりました。相双地方は医師不足が深刻であり、特に若手の先生がいません。なかなか厳しい環境ではありますが、そこには「医療の原点」がありました。「患者さんの話に丁寧に耳を傾け、患者さんの視点に立って診察している」という医師の言葉がとても印象的でした。「患者と医師」という社会的な関係ではなく、温かみがある「患者さんを診る医師」になりたいと強く思いました。

  他にも発電所の見学など、相双地方を理解するプログラムがたくさん含まれていました。地域で働く医師はその地域のこともしっかり理解することがとても大切だと思いました。

  この研修では、他大学の医学生と触れ合えるのもとてもよかったです。普段あまり考えないこと、気がつかないことにも目を向けることができました。この研修に参加して本当によかったと思います。皆さんも是非参加してみませんか。きっと世界が広がりますよ！

- 相双地区の研修は今回で２回目の参加です。今回も貴重で有意義な研修を体験できました。地域医療の実態、地域住民の方々との交流、医療従事者との懇談会など、医師を志す上での重要な経験とヒントを手に入れることができたと思います。一番印象に残ったのは課題研究や懇談会の時の討論です。同じ医学部生や医師の方々との討論を通じて考え方や視野が広がり、一回り成長できたと思います。地域医療研修に参加することで、自分が目指すべき医師像やこれから学ぶべきことを再確認できました。残りの学生生活では、地域について関心を深め、自分の言葉で地域の“よさ”や特色を伝えることができるようにしたいです。ありがとうございました。

- 今回、地域医療研修には３回目、相双地域での研修は２回目となる参加だった。私がこの研修に複数回参加している理由は、１つの研修にそれぞれ異なる貴重な体験ができるからだ。地域が異なれば、研修の内容も異なるのだから、異なった体験ができるのは当たり前と思われるかもしれない。では同じ地域に再び行く場合はどうだろう。研修毎に、保健福祉事務所の方々は研修の内容、改善点を考えて下さり、より良い研修になるよう変化している。

  また、研修に参加する学生も毎回違った人であり、地域医療に対する意識は高い人が多いが、考え方は様々である。そんな学生達と研修によって同じ時間を共有すると、参加する度に、毎回違ったもの（考え方）が得られる。それは、普段通りの大学生活を送っている中では得難いが、医師を目指す上で確実にプラスになるものだと私は思っている。だからこそ、この研修には医学生なら一度は（できることなら何度でも）参加してほしいと思う。地域医療で求められる医師とは、決して「地域」に限定されるものではなく、医師として働く上必ず求められるものなのだろ

うと感じた。

- とりあえず参加してみよう！そうしないとわからない

- 地域医療に興味を持っていたことと、ゆかりのある相双地域の実情を自分の目で見てみたいとの思いから、今回の研修に参加しました。地域医療に興味自体はありましたが、実際にどんなものかはよく分からずにいた自分にとって、今回の研修は、うまく言葉で表せられないようないろいろなことを感じ、医療について考えることのできた大変有意義なものでした。

  １日目に視察した高野病院では、ちょうどその時看護師さんが患者さんへ行っていたアロママッサージを体験させていただきました。私はまず、アロママッサージをしていること自体に驚いたのですが、患者さんが大変気持ちよさそうにリラックスして看護師さんと話している様子を見て、このマッサージの役割の大きさを感じました。また、案内してくださった看護師さんの常にこにこして話しやすい雰囲気で、一人一人と触れ合いながら寄り添っている様子を見て、自分もこんな風に、患者さんを安心させることのできる医療をしたいと思いました。

  ２日目に行った鹿島区の仮設住宅では、実際に原発や津波の影響で避難している方々の生の声を聞きました。私は研修に参加するまで、辛い体験を思い出させてしまわないように、あまり震災当時のことは聞かない方がいいと思っていました。でも、辛い思いをしているのに私たちに当時のことを話してくださって、むしろこの状況が忘れ去られることのないように、伝えて行かなくてはならない、という考えに変わりました。避難している方々の、家族と離れて寂しい思いをしたり、病気を抱えて不安な思いをしている中でも前を向いている様子に、感動しました。

  今回一番印象に残ったのは、１日目の懇談会で地域医療の話が出た時、地域医療は田舎特有なわけではなく、その地域に密着していればどこでも地域医療になる、と先生や先輩がおっしゃったことです。納得すると同時に、自分もこれから地域医療についてもっとしっかり考えていこうと思いました。また、背の高い草が一面生えた津波の被災地の空気に実際触れ、テレビで見ている時とは違うものを感じられたことも印象深いです。まだ相双地域について知らないこともたくさんあるので、またこのような機会があれば参加して、もっと知りたいと思います。

  大変貴重な体験をさせていただき、企画運営してくださった福島県立医科大学、相双保健福祉事務所の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

- 今回初めて参加させていただきました。まだ１年生なので、病院見学や病棟体験がとても新鮮で、医療従事者になるということを少しだけ実感することができました。

  高野病院では実際に患者さんと触れ合える機会をいただきました。私は精神科に行かせていただいたのですが、最初はどう患者さんと接していいかわからず困惑してしまいました。周りの看護師さん達の見よう見まねで何とかしているうちに、少しずつコミュニケーションが取れるようになってきました。まだ病状のことなどは全くわかりませんが、患者さんと向き合おうとする気持ちは大切にしていきたいと思いました。

  鹿島区の仮設住宅を訪問させていただいた時に、意外だったのは入居者の皆さんに笑顔が多かったことである。また、カラオケや手芸など、趣味の集まりもあり、困ったことはあるかと聞いたが、特に無いと言っていたので、イメージしたより充実した生活を送っているのではないかと

思った。しかし、原発のことや、国の政策のことに関しては少し声を荒げる場面もあり、やはりこの問題は根深いものがあるのだと感じた。一番印象に残った言葉は、「お金はいらないから早く家に帰りたい」という言葉だ。仮設住宅でもそれなりに楽しくは暮らせるが、自宅が一番という気持ちは３年半経った今でも変わりは無い、ということを思い知らされる言葉であった。

今回３日間と短い日程ではあったが、相双地区を見てきた中で、医師の方と話す機会が少ないと感じた。それは、それだけ医師が少ないということであろう。３日目の課題発表で、地域医療に求められる医師としてその地域のことが好きであるという条件が何人かから出たが、私はその条件がなくても、その地域に対して問題意識を持つことによっても医師は増えていくと思う。研修の趣旨から、相双地区を知ってもらうことが大きな目的であるとは思うが、もう少し具体的な医療の問題へとブレイクダウンできればこの研修がもう少し良くなるのではないかと思う。

- 今回の研修に参加した目的は、一つは地域医療に対する考えを深めること、そしてもう一つは被災地の現状を知るということであった。私の出身は愛知県であり、ほとんど震災の影響を受けたことがなかったため、特に後者の目的が自分の中では大きなものであった。

  高野病院の視察ではレクリエーションとして行っていたカラオケに参加させて頂いた。参加していた患者さんは高齢の方ばかりであったが、皆さん元気よく歌っていらっしゃった。その時お話しさせて頂いた方が「ここはいい所ですよ」とおっしゃっていたのがとても印象的であった。その後、事務長さんのお話しを聞き、被災時にどのような対処をしていたのかを伺った。患者さんのために、いち早く医療を提供するべくスタッフ一丸になって活動されていたことを知った。「医師や看護師だけでは医療は成り立たない。それまでには多くの人が関わっている」というお言葉が一番印象に残り、地域医療においては特に様々な方々との連携が大切なのであると感じた。

  この研修の中で最も衝撃を受けたのは、津波被災地の小高区の視察であった。今まで自分がテレビなどで見てきた映像とは違い、数年経たことで瓦礫は撤去され、ただ草原が広がっていた。そこにかつて人が住んでいたとは思えない殺風景に、なんともいえない感情が沸き、自然と涙が流れた。その中にもまだかろうじて形をとどめている家屋や、野球場などの施設があり、確かにここに住んでいた人はいたことが感じられ、非常に衝撃を受けた。

  振り返ってみると、非常に得るものの多い研修であった。研修中お世話になった施設や病院、保健福祉事務所の方には本当に感謝している。「地域医療でない医療など存在しない」という考えに今回行き着いたが、この考えをこれからも深めていけるよう、今後も精進していきたい。

- 地域医療体験研修（夏期）に初めて参加させて頂いた。非常に貴重な体験であった。

  始めにとても感動したことは、1 年生・3 年生・4 年生が非常に高い問題意識をもって参加していることだった。大学入学前に福島県・曹洞宗禅寺にて除染ボランティア活動をされた学生、震災後 3 年間ずっと継続的に活動を続ける熱い学生、目的や目標が明確な方もいる一方で、私を含め「なんとなく浜通り（相双）の今」を感じたいからと素直な心で参加する方もいた。

  相双地域医療体験研修は非常に充実した内容である。県外から参加した一人としては、国道 6 号線閉鎖域内の厳しい現状を知ることができた。また、非閉鎖域にお住まいの方々（仮設・定住）、市町村、病院、東北電力原町火力発電所を視察させて頂き、浜通りの今後の課題と展望を教えて頂いた。

  仮設住宅の集会所へ御訪問させて頂いた。広島県出身の私は新聞やニュースのみの情報であっ

たが、後日希望して仮設住宅を 1 週間程体験した。まず仮設住宅内の設備（自動風呂沸かし、洗浄トイレ、自動洗濯機、電子レンジ、大型液晶テレビ、四角い卓袱台などと洋室 2 部屋と和室 1 部屋）があった。生活はできると思われたが、研修でお会いした集会所の方々が「突然震災に遭い、放射能に遭う春夏秋冬の 3 年間の生活はした者でしかわからない」という言葉を頂いた。震災後、心の傷とともに、家族離別があった。仮設住宅を出た方と留まっている方･･･。

多くの医学生に福島県地域医療体験研修に参加して頂きたいと考える。希望を申し上げると医学部 5 年次のＢＳＬ（災害医療実習枠、地域医療枠）で体験できると自然に参加できると思う。またＮＨＫで総合診療医ＤｒＧ＠浜通り in Fukushima を実施し、全国の医学生や医療従事者及びお茶の間の方々と共有することも一つと思う。

最後になりますが、大変お忙しい中、引率して下さった福島県立医科大学の先生方、福島県相双保健福祉事務所の皆様に深く感謝いたします。

平成２６年度　　平成２６年９月

地域医療体験研修（夏期）実施報告

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所　総務企画部総務企画課

〒975-0031　南相馬市原町区錦町１丁目３０番地

電　話　0244-26-1326

ＦＡＸ　0244-26-1332

http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21160a/

E-mail:sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp